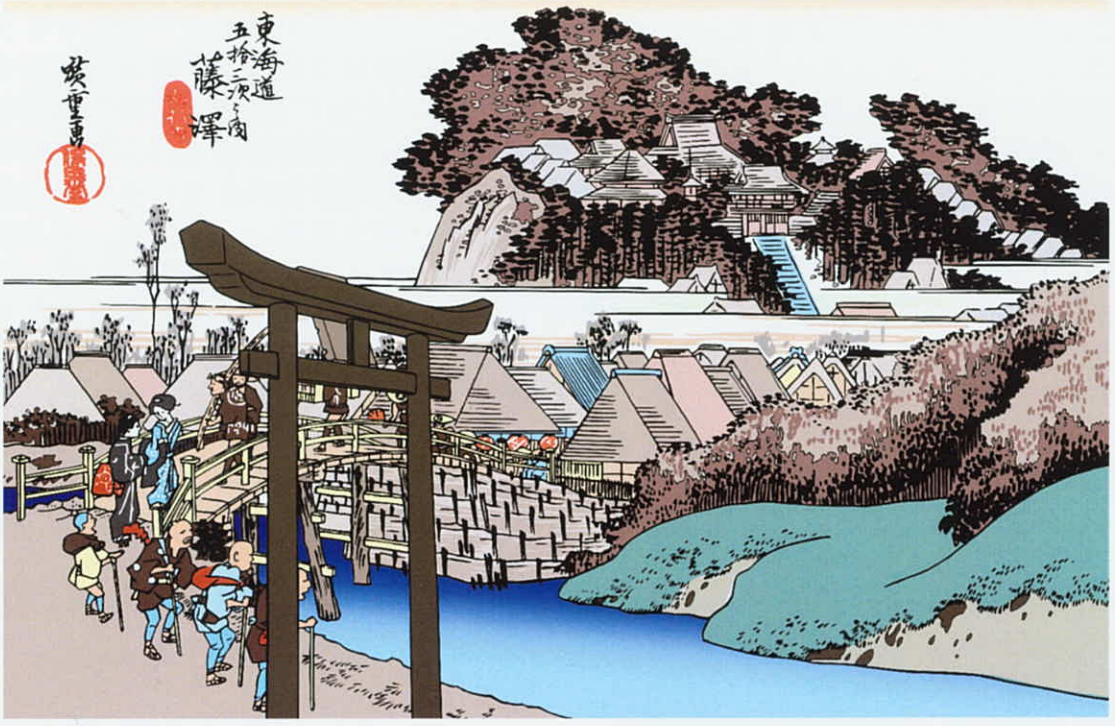
社会的事象を自らの生活とつなげながら多面的・多角的に深め合う授業づくり

藤沢市教育文化センター　教科・領域等　社会科

- 行政権を持つ内閣
- 戦争と人々の暮らし
- わたしたちの県のまちづくり
- 三人の政策をくらべよう
- 新しい文化と学問



2016（H28）3

はじめに

知識基盤社会化、グローバル化が言われる現代の社会状況や、子どもたちの学力の課題等を踏まえて、学習指導要領では、社会的事象を多面的・多角的に考察したり、社会的事象の意味を考えたりする力が一層求められています。また、その基になる力として、資料活用能力の育成も重要であるとしています。

「多面的にとらえること」とは、社会的事象の様々な側面を比較したり、関連付けたりして調べ、その特色を理解することで、「多角的にとらえること」とは、社会的事象を様々な角度から考察し、理解することです。

授業において、ただ何となく思考するのではなく、これまでの学習で得た知識や資料、子どもたちが自らの生活経験などに基づいて、自分の見方や考え方を広げることが求められています。その際に、一つの視点からだけ考えたり、固定的な見方で決めつけたりしていては、自分の見方や考え方は広がりません。複数の視点から考えを導き出したり、自分の考え方と違う人の意見を聞いたりすることで、自分の見方や考え方を広げることにつながります。

本研究部会は、平成 25 年度から小・中学校の５名の研究員で３年間の研究をスタートさせました。その際に、研究員それぞれが感じている子どもの実態や身につけさせたい力、目指す授業像などじっくり話し合いをしたり、互いの授業を参観し合ったりしてきました。

そうした中で、子どもは、社会的事象を一面的にしか捉えていなかったり、自分の考えを表現し発表することを苦手としていたりする姿が見られました。これらの実態から、子どもが「何でだろう」「どうしてだろう」と思う教材と出会い、それまでの見方や考え方がゆさぶられ、社会的事象について追究する授業づくりがしたいという願いのもと、研究テーマを「社会的事象を自らの生活とつなげながら、多面的・多角的に深め合う授業づくり」と設定し、研究を進めました。

社会的事象を多面的・多角的にとらえさせるための工夫や、自らの生活につなげて深め合う授業づくりを、各研究員が考え、研究部会に持ち寄って検討し、授業で実践しました。そして、研究員だけでなく、授業研究セミナーにご参加いただいた市内の先生方と共に授業での子どもの様子を振り返り、協議を重ねてきました。本書において、その足跡をたどっていただいたり、今、この研究報告書を手にとってお読みいただいている皆様にも、新たな発見と、今までの社会科の授業観に変化が起きることを願っています。

最後になりましたが、横浜国立大学名誉教授　影山清四郎先生には、３年間にわたり、温かく、そして丁寧にご指導をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

2016 年（平成 28 年）　3 月

藤沢市教育文化センター長　　上條　　茂

目　　次

はじめに

研究について

テーマ　：　社会的事象を自らの生活とつなげながら、
多面的・多角的に深め合う授業づくり

実践報告

行政権を持つ内閣　中学校３年　…　9
～ 消費税の増税について考える ～　山浦　史士

戦争と人々の暮らし　小学校６年　…　21
瀬戸　宣武

わたしたちの県のまちづくり　小学校４年　…　33
佐々木　恒平

近世の日本　中学校２年　…　45
～ 信長・秀吉・家康の全国統一 ～　伊豆原　かおり

新しい文化と学問　小学校６年　…　57
～ 町人の暮らしの中にある楽しみに思いをめぐらそう ～　川野　真一郎

研究を終えて　…　69
魅力と活力ある社会科授業を目指して
横浜国立大学名誉教授
影山　清四郎

平成 26 年度社会科の学習についてのアンケート　…　74

おわりに

おわりに

社会科をどう教えたらよいのだろう、子どもたちにどんな力をつけたらよいのだろうかと当初「社会的事象を多面的・多角的にとらえ、自分の生活と結びつけて考える授業づくりをめざして」というテーマを設定し、研究を進めていく中で、本当につなげていくべきなのは、「今後の生活」とではないかと捉えそこには、「自分の考え、想い、願い、経験、未来への展望　等」が含まれていると考えました。
そこで、テーマを「社会的事象を自らの生活とつなげながら、多面的、多角的に深め合う授業づくり」と改訂して取り組みました。「表現力の育成」に引き続き「深め合う授業づくり」へ広げ、さらに「表現することから、自らの生活につなげて深め合う」ことについては、教師の創意工夫によって様々な展開が可能になることや、社会科を教えるなかで、どのように「深め合う授業づくり」を進めていくかを意識することの大切さを改めて実感しました。また、小中の連携の必要さを感じました。大きな財産を得ることができたと思います。

この間、影山清四郎先生には厳しい中にも温かい励ましのあるご指導をいただきました。先生が話される一言一言は社会科を学び指導することへの勇気のようなものを与えていただいたと感じております。心より感謝申し上げます。今後もご指導お願いいたします。

最後になりましが、研究員所属校の校長先生をはじめ教職員の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

教科・領域等研究　社会科

社会的事象を自らの生活とつなげながら、
多面的・多角的に深め合う授業づくり

2016年（平成28年）3月発行

藤沢市教育文化センター　社会科研究部会

研究員　川野　真一郎（藤沢市立鵠南小学校教諭）
瀬戸　宣武　（藤沢市立亀井野小学総括校教諭）
佐々木　恒平（藤沢市立天神小学校教諭）
山浦　史士　（藤沢市立鵠沼中学校教諭）
伊豆原 かおり（藤沢市立高倉中学校教諭）

講　師　影山　清四郎（横浜国立大学名誉教授）

担　当　古澤　幸夫・片山　美奈子（藤沢市教育文化センター）

編集発行　藤沢市教育文化センター
〒251-0002　神奈川県藤沢市大鋸1407-1
TEL　0466-50-8300　FAX　0466-82-4764
URL:http:www1.fujisawa-kng.ed.jp／kyobun-c／
印刷所　（有）湘南グッド　TEL0466-25-2151

この冊子は再生紙を使用しております